

＜米国政府に IUCN 勧告の履行を求める要請書の訳文＞

2005 年 3 月 28 日

ライス国務長官 殿
ラムズフェルド国防長官 殿
ノートン内務長官 殿

拝啓

私たちは、日本の沖縄で絶滅危惧種の保護に取り組んでいる非営利組織、日本自然保護協会、WWF-ジャパンおよびジュゴン保護キャンペーンセンターを代表して意見を述べます。

去年の 11 月に、タイのバンコクで開催された第 3 回世界自然保護会議において、国際自然保護連合(IUCN)は、日本とアメリカ合衆国に対し、「ジュゴン、ノグチゲラ、ヤンバルクイナの保全」勧告を採択しました。これは、2000 年にヨルダンのアンマンで開催された第 2 回世界自然保護会議で採択された勧告(Rec.2.27)に続いて 2 回目の勧告になります。先の 勧告にもかかわらず、日本政府は 2002 年、沖縄の辺野古沖に、米軍飛行場建設を計画しました。飛行場建設計画は、絶滅の危機に瀕したジュゴンの主要な生息地であることが知られているサンゴ礁を、長さ 2,500m、幅 700m にわたって埋め立てるというものです。その上、防衛施設局は、環境影響評価を行う前にサンゴ礁を破損するボーリング調査を含む地質調査を推し進めています。

世界最大の自然保護団体である IUCN は、2000 年の勧告以降、日本および米国政府によって、沖縄の絶滅危惧種を救うための具体的な進展が見られなかったことから、2 回目の勧告を採択しました。この事実を考慮に入れ、ジュゴン、ノグチゲラ、ヤンバルクイナを含む絶滅危惧種を救うために、ただちに以下の行動を開始するよう要請します。

- 1) IUCN の国家会員ならびに政府機関会員として、沖縄の絶滅危惧種を救うために、米連邦政府の環境政策を再考すること。
- 2) 普天間飛行場代替施設建設事業ならびに米軍北部訓練場ヘリパッド建設事業に関して、日本政府と共同で環境影響評価をすること。

敬具

(財) 日本自然保護協会 理事長 田畑 貞寿
(財) WWF ジャパン 事務局長 日野 迪夫
ジュゴン保護キャンペーンセンター共同代表 宮城 康博